

エリア手当の差が

モチベーション低下招く

上井委員（福知山地方本部）



ている。

●各種手当の支給がC層に限られており、LM層の拡大を望む声が多い。採用競争力向上のためにも、継続的な賃上げが必要である。福知山地区は満額獲得を目指し、徹底的な行動やフォトモザイク、総決起集会を通じて、組合員が一体となって取り組む。

●組織について、福知山地区の組織率は98.1%だが、未加入者や他労組の存在が課題である。今後も、JR西労組

●業務課題について、福知山エリアでは、対策が課題となっており、列車停止件数は22年度1,041件、23年度756件、24年12月末時点で770件と横ばいである。忌避剤散布や運転時分の余裕設定に一定の効果はあるものの、遺骸処理の負担は軽減されていない。労使安全会議など継続した議論が必要。

●12月1日より福知山米子エリアで乗務員区所の内勤体制が見直され、総合運輸所がスタートした。課題抽出を進め、近畿協議会と共に対応していく。

●25春闘について、24春闘では統一ベア4,500円の実現や手当の新設増額があり、地上職の待遇改善が進んだ。

●長年の課題であるエリア手当の改善を強く求めている。地方組織見直し後も旧支区分が維持され、エリア手当の差が組合員のモチベーション低下を招

の脱退者を出さないため、支部分会と連携し、組合員が相談しやすい環境を整えていく。本部の支援もお願いする。

議員通常選挙が実施される。福知山地区の重点候補者は電力総連出身の浜野喜史氏であり、組合員家族への周知と投票行動の徹底を図っていく。

山陽新幹線

全線開業50周年を迎え

大島委員（新幹線協議会）

●新幹線協議会は、安全確保、働きがい向上、新幹線重大インシデントの風化防止を主要課題として活動を進めている。中央本部や地方本部の支援を引き続きお願いする。

●安全について、「鉄道安全考動計画2027」の実効

●新幹線協議会は、安全確保、働きがい向上、新幹線重大インシデントの風化防止を主要課題として活動を進めている。中央本部や地方本部の支援を引き続きお願いする。

介助業務の明確な基準の設置を

出口委員（神戸地方本部）

●春闘について、24春闘では地上職の待遇改善が図られたが、中堅・ベテラン層からはベースアップの差と、ML層からは作業責任者と非責任者の給与差がないことへの不満が寄せられている。また、間接部門では手当が少なく、業務のモチベーション低下が懸念される。

●今後の人材確保には、経験豊富な社員の処遇改善と若手の成長に応じた賃金体系の整備が必要である。大手他産業との賃金格差を広げないため、引き続きベア満額回答にこだわり、組合員全員で取り組んでいく。

●政治について、加古川線は昨年12月に全線開業1000



●安全について、神戸地区は、仲間の命を失った朝霧・明石間の触車死亡事故から24年を迎え、慰霊碑のある西明石管理室で安全な鉄道運営を誓った。

また、阪神淡路大震災から30年を迎え、当時の状況や復旧への奮闘について学んだ。安全に終わりはなく、悲惨な事故を繰り返さない想

いも、災害時の安全確保についても会社へのチェック機能を強化していく。

●業務について、駅では人員削減が進む一方で介助業務が増加している。無人駅での対応やタクシー乗り場までの案内など、負担が拡大し

小さなミスが減らすことが重大事故防止につながると考える。

●24春闘ではベースアップや地上職への手当の新設が実現し、組合員から喜びの声が上がった。25春闘でも賃金改善に向けた交渉を期待する。

執行部答弁

間接部門と直接部門の相互理解が必要

中村業務部長

●労働力不足や技術革新による急激な環境変化、新入社員も多く、業務の変化に適応しきれない状況であり、組合員の安全意識向上と継続的な研修の充実が必要である。賃金向上とともに、健康管理、メンタルヘルス支援を求め、また、新幹線エリアは、広域での異動が多く、エリア手当の格差は社員モチベーション低下につながるので、発展的な議論を期待する。

●新幹線協議会は中央本部、中央闘争委員会とともに団結し、課題解決に取り組む

●7月の参院選では、地方ローカル線問題を含む諸課題解決のため、浜野よしふみ氏の当選を目指し、全力で支援していく。

●本委員会が決定された方針を基に分会から創り上げる春闘を推進し、中央闘争委員会と共に闘う。

●7月の参院選では、地方ローカル線問題を含む諸課題解決のため、浜野よしふみ氏の当選を目指し、全力で支援していく。

会社の暴走をストップとして止める

大西委員（本社総支部）

●安全について、1月15日に開催した新春安全の集いで「安全を科学する」をテーマに、安全研究所組合員を招いて「リスク感度の向上に向けて」と題した講演を実施した。ヒューマンファクターに基づいたリスク感度向上方法や組織のあり方を学び、グループディスカッションでは実践的な研究成果や心理



●安全について、1月15日に開催した新春安全の集いで「安全を科学する」をテーマに、安全研究所組合員を招いて「リスク感度の向上に向けて」と題した講演を実施した。ヒューマンファクターに基づいたリスク感度向上方法や組織のあり方を学び、グループディスカッションでは実践的な研究成果や心理

●業務働き方について、コロナ禍を契機に本社間接部門は組織体制の見直しを行い、要員削減が進んだ。しかし業務量は減少せず、社員の負担は依然として高いままである。特に、過去の施策を断ち切れず新たなプロジェクト

●24春闘では、地上職の待遇改善が進んだ一方、間接部門の待遇改善が不十分であった。業務が過重で生産性を求められながらも、安全を最優先し施策を実施しているが、労働環境が改善されな

●24春闘では、地上職の待遇改善が進んだ一方、間接部門の待遇改善が不十分であった。業務が過重で生産性を求められながらも、安全を最優先し施策を実施しているが、労働環境が改善されな

●24春闘では、地上職の待遇改善が進んだ一方、間接部門の待遇改善が不十分であった。業務が過重で生産性を求められながらも、安全を最優先し施策を実施しているが、労働環境が改善されな

●24春闘では、地上職の待遇改善が進んだ一方、間接部門の待遇改善が不十分であった。業務が過重で生産性を求められながらも、安全を最優先し施策を実施しているが、労働環境が改善されな

●24春闘では、地上職の待遇改善が進んだ一方、間接部門の待遇改善が不十分であった。業務が過重で生産性を求められながらも、安全を最優先し施策を実施しているが、労働環境が改善されな

●24春闘では、地上職の待遇改善が進んだ一方、間接部門の待遇改善が不十分であった。業務が過重で生産性を求められながらも、安全を最優先し施策を実施しているが、労働環境が改善されな

●24春闘では、地上職の待遇改善が進んだ一方、間接部門の待遇改善が不十分であった。業務が過重で生産性を求められながらも、安全を最優先し施策を実施しているが、労働環境が改善されな

●24春闘では、地上職の待遇改善が進んだ一方、間接部門の待遇改善が不十分であった。業務が過重で生産性を求められながらも、安全を最優先し施策を実施しているが、労働環境が改善されな

●24春闘では、地上職の待遇改善が進んだ一方、間接部門の待遇改善が不十分であった。業務が過重で生産性を求められながらも、安全を最優先し施策を実施しているが、労働環境が改善されな

●組織構造見直し後の課題として、業務のスタックが進んでいない。ビルド&ビルドの状況にあり、管理職の業務負担に繋がりが、ゆくゆくはキャリアステップを望まない状況になる。これは課題である。年休取得の実態も含め引き続き議論していく。

●乗務員の内勤体制見直しは3年かけて進めていく予定であるが、各地方の特色や実態に合わせて議論をお願いしたい。

●社会人採用の動力車操縦者運転免許保持者については、新規同様の教育となるが、技能の見極めは早くなる事を想定している。

●車両・施設 電気施策の振り返りは、順次意見集約を行なっており、まとまり次第申し入れを行い議論していく。

●当を支給すべきで、昨年の春闘交渉から議論をしている。今春闘においても要求している。

●リファラル採用について、昨年の春闘交渉から議論を行なっている。仕組自体がないわけではないが、リファラル採用に当たっての手当は無い状態であり、人材の確保にも繋がることから今後さらに議論を深めていきたいと考えている。

●通勤手当の課題として、パスカル利用における全車指定席特急の指定席利用の特認については、期限が迫っている事から何がしかの対応が必要である。

●西バス、中バス本から経営状況に対するベースアップ額に対する声は受け止めた。ただ、大変厳しい経営状況だとしても、賃上げを行わなければ人財の確保、定着には繋がらないと考える。春闘期間を連携して取り組んでいきたい。

●各地本・総支部支部分会で撤布やフォトメッセージの取り組みで春闘を盛り上げていきたい。

強い思いで過去最大級の賃上げと

各種手当の改善を求める

杉野賃金対策部長

●ベースアップに対して強い意見を頂いた。物価上昇の対応や他産業との格差是正のため、ベースアップ15,000円を要求する。賃金実態調査では55歳を除き、各年齢ポイントで目標賃金に達しているが、昨年との比較のため、今春闘でさらなる賃上げを行わなければならない。他社に置いて行かれる状況である。

●これまで、金沢・福知山・米子エリアのエリア手当増額の議論を行ってきたが、和歌山・岡山・広島エリアの声も高まってきている。この3エリアについても申入れに追加し議論を行っていく。長年交渉している内容であり実現を目指している。

●全地方本部・総支部からML層にも勤務単位の職務手当支給拡大の声を頂いている。ML層の魅力向上を含めた議論

●昨年の春闘で光が当たった感があったと感じている中高年層や間接部門等で働く組合員に光が当たる春闘にすべく闘う。

●巡回旅費の改善について多くの意見を頂いている。統括本部化による環境変化に実態が見合っていないものだと感じている。今の実態に見合ったものにすべきと考える。

●休職者に対する要員確保と手当について、休職者をサポートできない要員状況ならサポートする周りの組合員に手

●休職者に対する要員確保と手当について、休職者をサポートできない要員状況ならサポートする周りの組合員に手

●休職者に対する要員確保と手当について、休職者をサポートできない要員状況ならサポートする周りの組合員に手



●昨年の春闘で光が当たった感があったと感じている中高年層や間接部門等で働く組合員に光が当たる春闘にすべく闘う。

●巡回旅費の改善について多くの意見を頂いている。統括本部化による環境変化に実態が見合っていないものだと感じている。今の実態に見合ったものにすべきと考える。

●休職者に対する要員確保と手当について、休職者をサポートできない要員状況ならサポートする周りの組合員に手

●休職者に対する要員確保と手当について、休職者をサポートできない要員状況ならサポートする周りの組合員に手